

岐阜県高校ラグビーの現状と強化策について

—アンケート結果の現状からみる提言—

岐阜県立各務原高等学校

吉 田 英 生

1. はじめに

平成 24 年に本県で開催された第 67 回国民体育大会(ぎふ清流国体)から 5 年が経過した。平成 24 年まで地元国体に向けて進められてきた強化が、国体の終了時点で終わりではなく、新たなスタートと考えてきたが、その後、強化がさらに発展的に進められたとは言い難い。

そこで、本研究は、岐阜県内高校ラグビー大会に参加するために登録している高校生、指導者を対象に各校の活動状況についてアンケート調査をすることによって現状を把握し、今後の岐阜県高体連ラグビー専門部のあり方や課題を明らかにし、競技力がより一層向上するための一助となるよう提言するものである。

2. 岐阜県高校ラグビーの現状と方針

現 状

〔 登録人数について 〕

近年 10 年間の岐阜県内高校ラグビーの登録選手数は平成 19 年度の 395 名から平成 28 年度は 295 名と年々減少の一途を辿っている。ラグビーフットボール競技(以下「ラグビー」と略す)は 1 チーム 15 人以上で成立するが、県内ラグビー部員が減り、2 校以上の合同チームとして大会に参加する高校が年々増えている。また、岐阜県においては、ラグビー部が存在しない高校に対し、ラグビー協会にチーム登録(学校名)と選手登録を行い、校長の承諾を得て大会に合同チームとして出場できることを認めた。これは中学時にラグビースクールに所属していた選手がラグビー部のない高校に進学後もラグビーを続けていきたいという意向を尊重し、岐阜県高体連ラグビー専門部が何度も議論し、協会へのチーム登録(学校名)と選手登録を条件に、合同チームの一員として大会に参加することを認めることとなったものである。今後もラグビー部がある各校が部員増加に尽力することはもちろん、県内ラグビー関係者が知恵を出し合い、ラグビー部員増加のために取り組む必要がある。

〔 戦績について 〕

近年 10 年間の全国大会出場校は関商工高校 8 回、岐阜工業高校 2 回であるが、2 回戦を突破し、ベスト 16(3 回戦進出)は H27 年度の関商工高校の 1 回だけで、全国においては高校ラグビー強豪都道府県とは言い難い。

〔岐阜県代表校の全国高校ラグビー大会での戦績〕

| 年度 | 代表校 | 実績 |
|-----|-----|---------|
| H19 | 関商工 | 1 回戦敗退 |
| H20 | 関商工 | 2 回戦敗退 |
| H21 | 岐阜工 | 1 回戦敗退 |
| H22 | 岐阜工 | 1 回戦敗退 |
| H23 | 関商工 | 2 回戦敗退 |
| H24 | 関商工 | 1 回戦敗退 |
| H25 | 関商工 | 2 回戦敗退 |
| H26 | 関商工 | 1 回戦敗退 |
| H27 | 関商工 | ベスト 1 6 |
| H28 | 関商工 | 1 回戦敗退 |

〔岐阜県高校選抜(U18岐阜)の国民体育大会での実績〕

| 年度 | 成 績 | 対戦相手 | 国民体育大会開催県 |
|-------|-----------------|---------------|-----------|
| H 1 9 | 東海ブロック国体 1 回戦敗退 | 1 4 - 4 3 愛知県 | 秋田県 |
| H 2 0 | 東海ブロック国体 1 回戦敗退 | 7 - 1 7 三重県 | 大分県 |
| H 2 1 | 東海ブロック国体 1 回戦敗退 | 0 - 7 9 愛知県 | 新潟県 |
| H 2 2 | 東海ブロック国体 1 回戦敗退 | 7 - 2 6 愛知県 | 千葉県 |
| H 2 3 | 東海ブロック国体 1 回戦敗退 | 5 - 6 6 三重県 | 山口県 |
| H 2 4 | 全国国民体育大会 1 回戦敗退 | 2 2 - 2 4 愛媛県 | 岐阜県 |
| H 2 5 | 東海ブロック国体 1 回戦敗退 | 5 - 7 三重県 | 東京都 |
| H 2 6 | 東海ブロック国体 決勝戦敗退 | 1 5 - 4 6 愛知県 | 長崎県 |
| H 2 7 | 東海ブロック国体 決勝戦敗退 | 1 4 - 2 7 愛知県 | 和歌山県 |
| H 2 8 | 東海ブロック国体 1 回戦敗退 | 7 - 4 5 三重県 | 岩手県 |

方針について

県の代表チームが全国の舞台で活躍できるよう強化することと、県内のラグビー選手が増加するよう努めることを同時に行い、その両立を目指す。

3. アンケート調査の概要

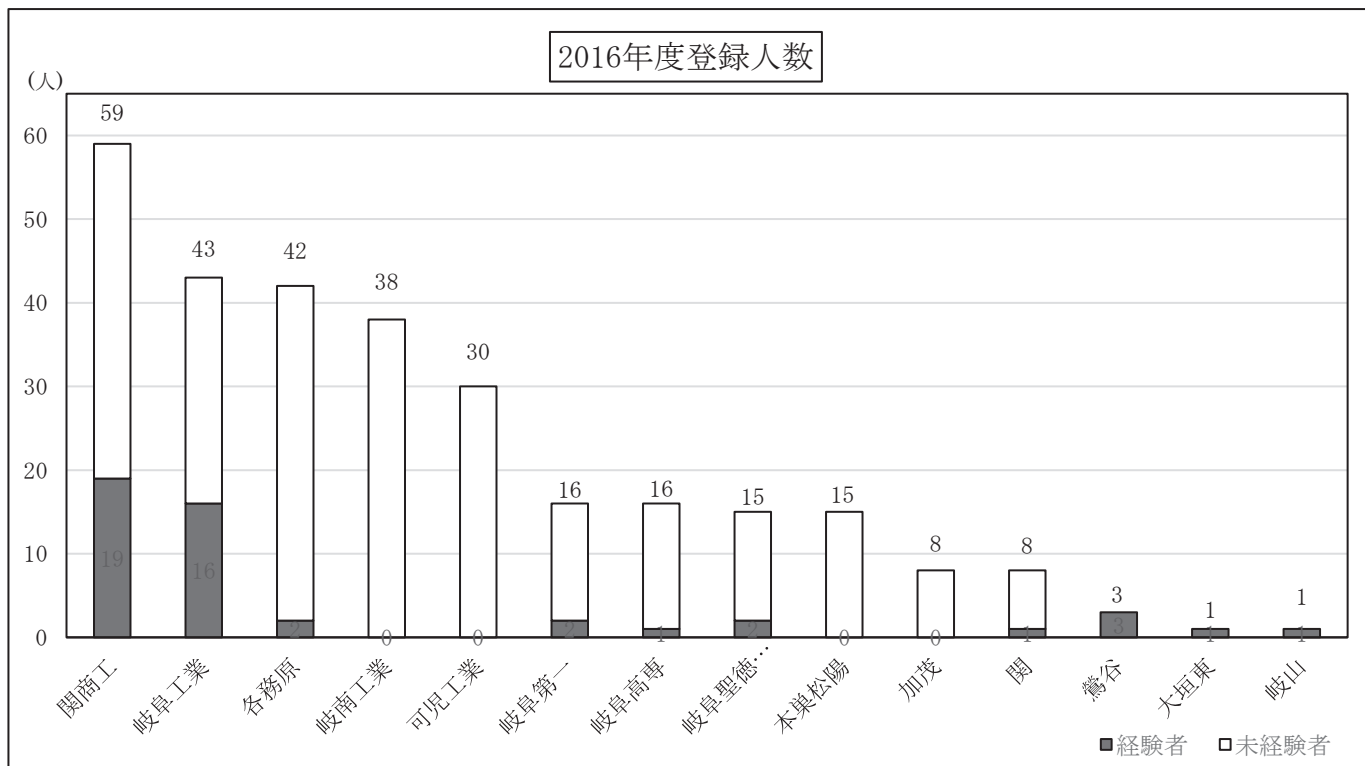
- (1) 対象 県内高校ラグビー部顧問 28名 (県内14校に関わる指導者)
 県内高校ラグビー選手 295名 (県内14校)
- (2) 期間 平成28年6月～7月
- (3) 調査内容 質問紙法によるアンケート調査
 [県内ラグビー大会に参加する高校の現状・強化の実態について]
- 【1】部員数などについて
 【2】指導者について
 【3】チームのサポートについて
 【4】チームの目標と活動内容について
 【5】各カテゴリーとの連携について

4. アンケート調査結果及び考察

【1】部員数などについて

(1) 2016年度の登録人数について

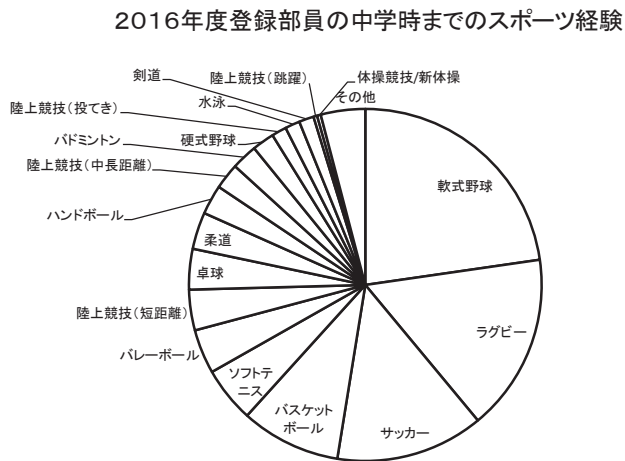
| | 関商工 | | 岐阜工業 | | 各務原 | | 岐南工業 | | 可児工業 | | 岐阜第一 | | 岐阜高専 | | 岐阜聖徳学園 | | 本巣松陽 | | 加茂 | | 関 | | 鶯谷 | | 大垣東 | | 岐山 | | 合計 | |
|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|--------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 全部員 | 経験者 | 全部員 | 経験者 | 全部員 | 経験者 | 全部員 | 経験者 | 全部員 | 経験者 | 全部員 | 経験者 | 全部員 | 経験者 | 全部員 | 経験者 | 全部員 | 経験者 | 全部員 | 経験者 | 全部員 | 経験者 | 全部員 | 経験者 | 全部員 | 経験者 | 全部員 | 経験者 | 全部員 | 経験者 |
| | 59 | 19 | 43 | 16 | 42 | 2 | 38 | - | 30 | - | 16 | 2 | 16 | 1 | 15 | 2 | 15 | - | 8 | - | 8 | 1 | 3 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 295 | 48 |
| 1年生 | 24 | 11 | 17 | 5 | 9 | 1 | 12 | - | 11 | - | 6 | 1 | 5 | 1 | 5 | - | 9 | - | - | - | 2 | - | 2 | 2 | - | - | - | - | 102 | 21 |
| 2年生 | 19 | 4 | 10 | 3 | 20 | - | 14 | - | 9 | - | 2 | 1 | 6 | - | 2 | - | 1 | - | 4 | - | 4 | - | - | - | 1 | 1 | - | - | 92 | 9 |
| 3年生 | 16 | 4 | 16 | 8 | 13 | 1 | 12 | - | 10 | - | 8 | - | 6 | - | 8 | 2 | 5 | - | 4 | - | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | - | 1 | 1 | 102 | 18 |
| 顧問人数 | 3 | 3 | 3 | 1 | 3 | 1 | 3 | 2 | 3 | 2 | 2 | 1 | 1 | - | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | - | 1 | - | 1 | - | 28 | 16 |



登録人数の現状は、年3回の県大会すべてに単独校として出場している高校は左から5校のみである。5月～11月に行われる県総体、全国高校ラグビー大会県予選は単独で出場できるが、3年生が引退した後の1月に行われる県新人大会は9校がいくつかの合同チームに分かれて出場している。

(2) 2016年度登録部員の中学時までのスポーツ経験について

| 種目名 | 各種目人数 |
|------------|-------|
| 軟式野球 | 67 |
| ラグビー | 48 |
| サッカー | 40 |
| バスケットボール | 27 |
| ソフトテニス | 15 |
| バレーボール | 12 |
| その他 | 12 |
| 陸上競技(短距離) | 11 |
| 卓球 | 11 |
| 柔道 | 10 |
| ハンドボール | 8 |
| 陸上競技(中長距離) | 7 |
| バドミントン | 7 |
| 硬式野球 | 6 |
| 陸上競技(投てき) | 4 |
| 水泳 | 4 |
| 剣道 | 4 |
| 陸上競技(跳躍) | 1 |
| 体操競技/新体操 | 1 |
| 合計 | 295 |



中学時までのスポーツ経験については軟式野球が多い。続いてラグビー、サッカー、バスケットボールの順となっているが、さまざまな種目から高校入学後にラグビー部に入部している。中学時のラグビー経験者の割合は全体の16.3% (295名中の48名) と少なく、高校入学後からラグビーを始める生徒が83.7%で非常に多い。ラグビー経験者の割合が高い高校としては、関商工高校 (32.2% : 59名中の19名)、岐阜工業高校 (37.2% : 43名中の16名) が挙げられる。ジュニア世代 (中学世代) のラグビー経験者が他県へ進学したり、高校からはラグビーを離れたりする生徒もおり、今後もジュニアとの交流を図りながら、魅力ある高校ラグビーを構築し、県内の高校ラグビーの発展に努めていきたい。

(3) 部員勧誘について

【教師の活動】・部活動紹介で劇を行い、興味をもってもらおう (毎年好評である)

- ・DVDを制作し、部活動紹介で流す
- ・ラグビーに関するドキュメンタリーを見せる

【部員の活動】・校内でのビラ配り

- ・上級生が各教室へ勧誘しに行く
- ・部員の知り合いに声をかける
- ・部員と同じ中学の生徒を勧誘
- ・体験入部に力を入れている (学校で設定されている期間外も実施)

【2】 指導者について

年代別顧問人数 (選手経験の有無)

[選手経験あり (顧問数)]

| | 人数 | 上級コーチ | 強化コーチ | スタートコーチ | 資格なし |
|------|----|-------|-------|---------|------|
| 20歳代 | - | - | - | - | - |
| 30歳代 | 2 | - | - | 2 | - |
| 40歳代 | 10 | - | 6 | 2 | 2 |
| 50歳代 | 4 | - | - | 1 | 3 |
| 60歳代 | - | - | - | - | - |
| 合計 | 16 | - | 6 | 5 | 5 |

[選手経験なし (顧問数)]

| | 人数 | 上級コーチ | 強化コーチ | スタートコーチ | 資格なし |
|------|----|-------|-------|---------|------|
| 20歳代 | 3 | - | - | - | 3 |
| 30歳代 | 4 | - | - | - | 4 |
| 40歳代 | 1 | - | - | - | 1 |
| 50歳代 | 3 | - | - | - | 3 |
| 60歳代 | 1 | - | - | - | 1 |
| 合計 | 12 | - | - | - | 12 |

部員数に比例した顧問がいる。ラグビー部がある高校にはラグビー選手としての経験がある顧問が1人以上はいる。しかし、ラグビー選手としての経験がある顧問の年齢層は、40歳代に10名 (選手経験がある顧問は全体の62.5%) と偏りがあり、特に20歳代は0人、30歳代は2人しかいない。

【3】チームのサポートについて

【専門家のサポート数について】

| | 関商工 | 岐阜工業 | 各務原 | 岐阜工業 | 可児工業 | 岐阜第一 | 岐阜高専 | 岐阜聖徳学園 | 本巣松陽 | 加茂 | 関 | 鶯谷 | 大垣東 | 岐山 | 合計 |
|------------|-----|------|-----|------|------|------|------|--------|------|----|---|----|-----|----|----|
| メディカルトレーナー | 3 | 1 | 1 | - | - | 1 | - | 1 | - | - | - | - | - | - | 7 |
| フィジカルトレーナー | 1 | - | 1 | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | 3 |
| メンタルトレーナー | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 0 |
| 栄養士 | 1 | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 外部コーチ | 1 | 1 | 3 | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | 6 |

(1) メディカルトレーナーのサポート

| 学校名 | 資格名 | 頻度 | サポート内容 |
|--------|----------------|---------|--|
| 岐阜第一 | 柔道整復師(1) | 試合時は必ず | 学校近くで接骨院を開業されているため、学校練習などでのケガ対応 |
| | | 1～3回/年 | 合宿に帯同 |
| 岐阜聖徳学園 | なし | 12回以上/年 | 練習時、遠征などでケガ人への対応 メディカルグッズの点検・補充 |
| 関商工 | 柔道整復師(2) | 12回以上/年 | 練習試合、公式戦におけるテーピング、ケガのケア コンディショニング指導(可動域の確認、柔軟性向上) |
| | アスレチックトレーナー(1) | 12回以上/年 | 筋力トレーニングのサポート 選手のメンタルケア |
| 岐阜工業 | 柔道整復師(1) | 12回以上/年 | 練習試合、公式戦などのテーピング、ケガのケア 平日の身体のケア |
| 各務原 | 柔道整復師(1) | 12回以上/年 | 練習試合、公式戦におけるテーピング、ケガのケア コンディショニング指導(可動域の確認、柔軟性向上) |
| | | | 体組成計測、指導 筋力トレーニングのサポート |

(2) フィジカルトレーナーのサポート

| 学校名 | 資格名 | 頻度 | サポート内容 |
|--------|----------------|---------|--|
| 岐阜第一 | 柔道整復師(1) | 1～3回/年 | 体幹トレーニング中心のメニュー作成・指導 |
| 岐阜聖徳学園 | なし | 12回以上/年 | 主に休日、学校のトレーニングルームにて指導してもらっている |
| | | | トレーニングマシン、器具、自重を使ったトレーニングプランの設定 指導及び評価、目標設定など |
| 関商工 | アスレチックトレーナー(1) | 12回以上/年 | 筋力トレーニング指導 |
| | | | 体組成の測定 10m、50mスプリント測定 |
| 各務原 | 公認スポーツトレーナー | 12回以上/年 | 各種トレーニングメニュー作成、指導(週1回) |
| | | | コンディショニング指導(可動域の確認、柔軟性向上) 筋力トレーニングのサポート |

(3) メンタルトレーナーのサポート

| 学校名 | 資格名 | 頻度 | サポート内容 |
|-------|-----|----|--------|
| 該当校なし | | | |

(4) 栄養士のサポート

| 学校名 | 資格名 | 頻度 | サポート内容 |
|-----|-----|---------|------------------------------|
| 関商工 | | 12回以上/年 | 栄養講習(月1回) |
| | | | 体重の管理 合宿の食事サポート |
| 各務原 | | 1～3回/年 | 年3回の栄養指導 |
| | | | 体重管理 練習期、試合期におけるアドバイス(随時) |

(5) その他1〔コーチ〕

| 学校名 | 資格名 | 頻度 | サポート内容 |
|------------|---------|---------|---|
| 岐阜工業高等専門学校 | スタートコーチ | 12回以上/年 | OB(50歳代)を外部コーチに指名し、チーム登録に必要なコーチ資格保持者として登録している。通常は週1回のチーム練習の指導、合宿・遠征への帯同、試合の助言を行ってもらっている |
| 岐阜工業 | なし | 12回以上/年 | OBによる選手への実技指導(週末) |
| 関 | なし | 12回以上/年 | OBによる選手への実技指導(週1回) |
| 各務原 | なし | 12回以上/年 | OBによる選手への実技指導(週末) |

メディカルトレーナー、フィジカルトレーナー、栄養士、コーチは7つの高校がサポートを受けているが、メンタルトレーナーのサポートを受けている高校はない。

【4】貴チームの目標と活動内容

| | | 関商工 | 岐阜工業 | 各務原 | 岐南工業 | 可児工業 | 岐阜第一 | 岐阜高専 |
|-------------|------|-----------|--------|-----------|--------|---------|-------|----------|
| チーム目標 | | 全国大会ベスト16 | 全国大会優勝 | 全国大会1回戦突破 | 全国大会出場 | 県大会ベスト4 | 公式戦1勝 | 全国高専大会出場 |
| 練習頻度(日/週) | 朝練習 | 4 | 5 | 4 | 5 | 5 | 2 | - |
| | 夕方練習 | 4 | 4 | 4 | 4 | 5 | 4 | 3 |
| | 土日練習 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 |
| 練習試合頻度(日/年) | | 40 | 40 | 35 | 15 | 20 | 15 | 14 |
| 合宿頻度(回/年) | | 3 | 2 | 1 | 2 | 2 | 3 | 1 |
| 合宿日数内訳 | 1泊2日 | - | - | - | - | 1 | 1 | - |
| | 2泊3日 | - | - | - | 1 | - | 1 | - |
| | 3泊4日 | 1 | - | - | - | 1 | - | 1 |
| | 4泊5日 | 1 | - | 1 | 1 | - | 1 | - |
| | 5泊以上 | 1 | 2 | - | - | - | - | - |

| | | 岐阜聖徳学園 | 本巣松陽 | 加茂 | 関 | 鶯谷 | 大垣東 | 岐山 |
|-------------|------|--------|--------|----|--------|--------|-----|----|
| チーム目標 | | 全国大会出場 | 東海大会出場 | なし | 東海大会出場 | ケガなく活動 | なし | なし |
| 練習頻度(日/週) | 朝練習 | 5 | - | - | - | - | - | - |
| | 夕方練習 | 2 | 5 | 5 | 5 | - | - | - |
| | 土日練習 | 2 | 1 | 1 | 1 | - | 2 | - |
| 練習試合頻度(日/年) | | 10 | 20 | 6 | 10 | - | 10 | - |
| 合宿頻度(回/年) | | 1 | 1 | 1 | 1 | - | 1 | - |
| 合宿日数内訳 | 1泊2日 | - | - | - | - | - | - | - |
| | 2泊3日 | - | - | - | - | - | - | - |
| | 3泊4日 | 1 | 1 | 1 | 1 | - | 1 | - |
| | 4泊5日 | - | - | - | - | - | - | - |
| | 5泊以上 | - | - | - | - | - | - | - |

チームの目標として、全国大会出場以上を目指し活動している高校4校(関商工、岐阜工業、各務原、岐南工)が、ここ10年間の各大会において上位を独占している。合宿については、部員が15人に満たない人数の高校は実施していないところもあり、合宿回数を多くすることよりも、練習試合を中心に活動するチームが多い傾向にある。最大では関商工が年間3回実施している。

【5】各カテゴリーとの連携について

(1) 大学との交流について

| 学校名 | 頻度 | 内 容 |
|------|--------|---|
| 岐阜第一 | 20回/年 | 朝日大学で行われている瑞穂市スポーツガーデン(NPO法人として、ラグビーは毎週土曜日夜に大学生と他カテゴリーの練習会を行っている)に、本校から4名の選手が参加し、指導を受けている |
| | 7~8回/年 | 練習試合などを朝日大学グラウンドで行ない、その反省点、改善点を朝日大学のコーチングスタッフにフィードバックを受けている |
| 関商工 | 3回/年 | 不定期に、スキルアップ指導に参加している(大学生40名程度) |
| 岐阜工業 | 随時 | 練習試合の会場にグラウンドを使用している 合同練習、練習会などへの参加 |
| 各務原 | 随時 | 練習試合の会場にグラウンドを使用している 合同練習、練習会などへの参加 本校から大学進学し、ラグビーを継続して続けている大学生の練習参加。ゲーム形式でも行う |

(2) 中学生との交流について

| 学校名 | 頻度 | 内 容 |
|------|---------|---|
| 岐阜第一 | 4~6回/年 | 岐阜県中学生ラグビースクール選抜との合同練習、練習試合を行っている |
| | 4~6回/年 | 顧問が練習に出向き、指導を行っている |
| 関商工 | 7~11回/年 | 不定期に、合同練習を開催(中学生30名程度) |
| 岐阜工業 | 4~6回/年 | 岐阜県中学生ラグビースクール選抜との合同練習、練習試合を行っている 合同練習、練習会などへの参加 |
| 各務原 | 4~6回/年 | 岐阜県中学生ラグビースクール選抜との合同練習、練習試合を行っている 毎週木曜日に地域の子供たち(保育園児~小学生中心)にラグビー場を開放し、高校生と交流するクラブを開催 |

(3) 小学生との交流について

| 学校名 | 頻度 | 内 容 |
|-----|-----------|--|
| 各務原 | 1 2 回以上/年 | 毎週木曜日に地域の子供たち（保育園児～小学生中心）にラグビー場を開放し、高校生と交流するクラブを開催 |

大学との交流については、チームのスキルアップを目的としている。中学生との交流では、中学側からの要望で行われることが多い。岐阜第一高校は朝日大学で行われている瑞穂市スポーツガーデンに個人のスキルアップを目的として選手が参加し、各務原高校は地域の子供たちとの交流として、クラブ活動を開催している。

5. 今後の課題

今後の課題は、下記の3点である。

- 高校生ラグビー人口の拡大
- 県代表校または岐阜県高校代表チームの全国大会での上位進出
- 指導者の育成

一つ一つの課題が独立しているものではなく、連携を図りながら進行すべきものであり、困難を極めるかもしれないが、岐阜県高体連ラグビー専門部として力を尽くし、やりとげなければならないことである。

6. まとめ

今後、県内の高校がラグビー部を創部する可能性は低く、現在、ラグビー部がある高校でも部員不足により廃部になってしまう可能性は否めない。

「高校生ラグビー人口の拡大」については、今回のアンケート調査の回答にもあったとおり、指導者同士が様々な意見を出し合い、ラグビー経験のない生徒の勧誘に力を尽くすことが肝要である。岐阜県ラグビーフットボール協会、朝日大学などと連携し、中学校までのジュニアラグビー選手人口の拡大に努め、さらに高校入学後のラグビー継続へとつなげ、経験者の拡大を図りたい。

「県代表校または岐阜県高校選抜チームの全国大会での上位進出」を達成するための強化方針としては、県内の高校ラグーマンの強化を各校が積極的に進めると同時に、年代別の強化講習会などで一人一人を強化し、県代表校または岐阜県高校選抜チームが全国で上位に入れるシステムづくりと、強化内容の充実が急務であると考えている。県内には全国大学選手権大会に5年連続出場している朝日大学があり、人工芝グラウンドの提供だけでなく、土曜日に開催しているスポーツガーデンという総合型地域スポーツクラブの活動により、高校生、中学生、小学生などのスキル向上を目指した取組を展開している。このスポーツガーデンへの参加や大学生の協力のもと、合同練習を実施するなど、強化できる環境は十分にあると考えられる。

「指導者の育成」については、県内の高校ラグビー選手が教員を目指すよう大学への進学指導を充実するとともに、大学卒業後は岐阜県高校教員として採用されるように教員志望の大学生とのつながりを大切にして、指導者数の増加に尽力する。さらに、岐阜県ラグビーフットボール協会などと連携してコーチ研修を開催し、指導力をブラッシュアップしていくことが求められる。

今年度から、岐阜県高体連ラグビー専門部が中心となり、高校1年生対象の強化練習会を年4回開催し、また、岐阜県ラグビーフットボール協会が、ラグビー未経験の中学3年生を対象にラグビー体験練習会を開始するなど、明るい兆しが見えてきた。

今後は、今回の調査をベースにして将来を見据えた定期的な調査を継続するとともに、指導者が学校の枠を越えて建設的な意見を交換しながら議論を重ね、岐阜県高校ラグビーの発展に向けた組織的な取組を継続する必要がある。